

No.1793

第1794回例会

2018年2月2日(金)12:30~13:30

点鐘

君が代斉唱

ロータリーソング“奉仕の理想”

会食(中華・米山ランチ)

会長会務

*ビジター・ゲスト紹介

*3年前の2015~2016年度から2月は「平和と紛争予防／紛争解決月間」とされました。当時シリアの内乱で多くの人々がヨーロッパへ逃れて難民になっていることや、フランスのパリでのテロ事件や報復空爆、戒厳令等のニュースが毎日のように耳に入っていました。日本の近隣でも北朝鮮の核ミサイル攻撃、中国との尖閣諸島の領有権の問題等、日本国民として世界の人々の平和な暮らしが脅かされないように、紛争解決の道を切り開いて欲しいと切実な思いで願っています。

*池上ガバナーより、2020~21年度ガバナーとして岡山西RC 菊池捷男(としお)氏に正式決定したとの宣言を頂きました。

幹事報告

*2月のロータリーレートのお知らせ。

\$1=110円

*ガバナー月信No.8、抜粋のつづりを配布。

*例会後、次年度理事会を開催いたします。

委員会報告

*親睦・出席委員会

出席率・スマイル報告

*その他

卓話「青少年少女ロボットセミナー in鳥取」

芝浦工業大学校友会鳥取支部事務局

支部長 富本 哲郎 氏

先週(第1793回例会)の記録

2018年1月26日(金)12:30~13:30

会長会務

1月は職業奉仕月間です。今年度も西RCから35年間鳥取大学で鳥の感染症や鳥インフルエンザの研究をされてきた鳥取大学名誉教授/大槻公一氏に職業奉仕賞表彰をさせていただきます。

1月26日は文化財防火デーです。文化財を火災や震災から守り、文化財愛護思想の普及高揚を図る目的で1955年に文化庁・消防庁が合同で制定しました。この冬場も暖房器具等使用しますが、火の用心の心がけが大切です。

次年度地区委員(米山記念奨学委員会委員)委任状を平野敏和会員にお渡しいたします。

幹事報告

*理事会報告

1. 中間決算承認
2. 新入会員研修会費補助の承認

*2月は1週目次期理事会、2週目理事会、3週目クラブ奉仕委員会会議に変更いたします。

出席率

1月26日 会員55名 欠席14名 74.07%

1月12日 メーキャップ 4名 87.04%

スマイル

*倭島昭博会員/①一昨日から強い寒波と降り続く積雪で県内もスリップ事故等が発生しておりますので、気をつけて安全運転を心がけましょう。②鳥取大学名誉教授 大槻公一様、職業奉仕賞おめでとうございます。

*松島 勇会員/①大槻公一先生、本日はありがとうございます。②来週より鶴の間です。

*小林 一会員/大槻先生、受賞おめでとうございます。一層の御活躍をお祈り致します。先生から基礎研究の重要性を学ばせていただいています。

*米花廉友会員/大槻先生、鳥取西RC職業奉仕賞おめでとうございます。更なる御活躍を祈念致します。

*坂本 直会員/①久々の豪雪、寒中御見舞申し上げます。②東京お茶の水RCにメーキャップ

してきました。

- * 葉狩弘一会員／大雪と寒さで動くのがおっくうです。それでも例会はあります。残念。
- * 森下哲也会員／雪にも負けず、風にも負けず、出席しています。
- * 油谷博文会員／雪がイヤですね。倭島さん、写真ありがとうございます。
- * 多田一昭会員／何歳まで生きられるかを考えるように、そんな年になりました。(誕生日)
- * 幡 碩之会員／(皆勤表彰)
- * 麻木宏栄会員／(創業記念日)
- * 早退3件 合計25,000円
- * R財団特別寄付：1件

メーカー

1月17日 坂本 直会員 東京お茶の水RCへ

会計 岡田会員

中間決算報告：新入会員による収入も増加し、健全な会計

雑誌委員会 葉狩会員

ロータリーの強みは多彩な経歴や能力を持つ会員が集まるクラブならば、そのような会員がいない団体より優れた奉仕活動が行えるという考え方(横P.3) 横書 P.8, 12, 16, 20, 30 縦書 P.9, 20, 22 概略説明

会員増強委員会 牧浦会員

上期3名入会 下期も宜しくお願ひします。新入会員(3年以内)研修会 現在22名参加予定
2月23日(金) 18:30~ 於:花のれん

職業奉仕賞表彰

- * 授賞者：京都産業大学客員教授
鳥取大学特任教授 大槻 公一 氏
(経歴)1966年 北海道大学獣医学部卒業
1991年 鳥取大学農学部教授
1993年 鳥取大学農学部付属家畜病院長
2005年 鳥取大学疫学研究センター長
2006年 鳥取大学名誉教授・特任教授
同年 京都産業大学鳥インフルエンザ研究センター設置準備室長 歴任

* 米花職業奉仕委員長

(表彰理由)長年に亘り鳥の感染症の研究に日夜励まれ、今や鳥インフルエンザの世界的な第一人者として活躍されている研究は、職業を通して社会に奉仕・貢献されておられます。そのご功績に対し職業奉仕賞を授与させていただきます。

* 小林会員

鳥取大学農学部で一緒に生活させていただき、非常に人情味のある先生です。先生のお仕事は今でさえクローズアップさせておりますが、鳥の疾病の研究(湖山池の渡り鳥の糞研究等)を地道に長年されておられます。研究者はいつ日の目に当たるかわからない、日々コツコツと努力された成果として研究者としてあるべき姿を示して頂いたと私も胸を打たれる思いであります。今日は先生には心からお祝い申し上げます。

* 『鳥インフルエンザ研究』 大槻公一氏

本日は身に余る賞を頂きまして、感激しております。ありがとうございます。また先程経歴を詳

細に紹介頂き、かつての同僚であります小林先生から有難いお言葉を頂き、光栄です。

鳥インフルエンザ研究ですが、獣医学の一部として始めました。主として1970年代からになりますが、その頃は鳥インフルエンザの知識は世界中ありませんでした。今は周知されており、非常に驚いております。

2004年2月京都府の丹波町にある養鶏場で鳥インフルエンザが発生し、当時鳥取大学にいる私に連絡があり、京都に伺い現場で京都府のメンバーと作業したおりました。その中で京都にある大学で京大には獣医学部がないという事で、京都産業大学が獣医学部を作るという事でお招きを頂き、現在に至っております。

私を呼んで頂いた方は当時鳥取大学の板垣先生でこの先生が昭和14年に論文でにわとりペスト(今でいう鳥インフルエンザ)研究を発表されました。その後十数年経って自身が研究をしているという流れです。

国連が人の新型インフルエンザに鳥インフルエンザが深く関与しているらしいので、加盟国は渡り鳥のインフルエンザを研修するのが望ましいという発信があり、研究を開始いたしました。

秋の渡り鳥は3つのルートから渡ってくるということがわかっており、山陰地方で5箇所の地域で渡り鳥のふんを調べております。(伊東海岸～大塚町/安来方面)

全てのインフルエンザウイルスの祖先は鳥インフルエンザウイルスに辿り着きます。元々ウイルスは水鳥(鴨)が持っており、殆どのウイルスは病原性がなく、ごく変わり種のウイルスが問題になっています。鳥に対してと哺乳類に対する病原性が違うとわかっています。鳥インフルエンザは鳥だけ注意していればよいかというと汎用動物も感染します。その中で猫が一番感受性の高い動物です。時期には外に出さない方が良いです。

今の研究では鳥インフルエンザは人には感染しにくいと言われております。

野生の動物に対しては人の身勝手が正しくなく、鳥が生活しやすい環境を保って、距離をおいて観察する自然を大切にすることが重要です。

鳥インフルエンザはわかっていない性質を持っています。地球規模(北米・欧州・中東等)で広がっており、益々危険性を増しています。

現在京都産業大学で鳥取大学のチームと組んで、日本より被害が大きいベトナムで研究をしています。常に被害が起こっている場所で研究をすることで制圧に取り組めればと思います。

次週例会予定

2018年2月9日(金) 第1795回例会

卓話「I ターンの理想と現実」

はやし接骨院 院長 林 貴之 氏
(編集者 狩野 義仁)

